

オーストラリアでの生活、出産や育児、教育の様子についてお伝えしてきました。日本では当たり前前と違っていたことも、こちらに住んでみるとずいぶん違うと感ずることが多々ありました。日本を離れてみて、日本の良さを再認識することもありました。その一方で、今後の日本を担う子どもたちにとって、必要ではないかと感じる点はいくつかありましたので

まとめてみたいと思います。

「悠々オーストラリア」

と題をつけたように、こ

ちらの生活は自然に囲ま

れ、ゆったりと過ごす時

間が多いようです。いろ

んな遊び場所のある日

本に比べると、最初は物

足りなさを感じました

が、自然の中で日を浴び

てゆっくり家族との時間

を過ごす。そんな習慣を

持つことが、実は子ども

の人格形成に大切なこと

日本の子どもたちのために

将来に大きな希望を



次の世代を担うオーストラリアの子どもたち

なのかもしれません。

オーストラリアでは、

個性豊かで自分を持って

いる人が多いように感じ

ます。学校教育修了後の

進路も、高校生の時から

職業体験などを通じて、

将来はどの方向に進むか

を決めているようです。

大学に入学することより

も卒業することが難しい

というこちらの大学のシ

ステムも影響しています

が、何をやりたいか分か

らないけどとりあえず大

学に進学する、というよ

うな学生はほとんどいま

せん。

大学の復学も年齢は全

く関係ありません。主婦

業を終えて、あるいは、

全く異なる業種から教職

員を目指す中年世代もめ

ずらしくありません。こ

のオーストラリア流、再

チャレンジが日常茶飯で

行われる社会は、日本人

の私にはとても新鮮に映

りました。

親が子どもの教育にか

かわることも重要なこと

でしょう。前回、「親業」

(ペアレンティング)に

ついて触れましたが、親

が子どもの教育を学校任

せにせず、親が子どもを

育てる、人間を育てるの

だという意識を持つこと

が大切ではないでしょう

か。

地球人としての視野、

移りゆく社会で生き抜く

力を育てるといった、子

どもの未来を見据えた教

育も必要です。今は先行

きが不安な時代ではあり

ますが、親が生き生きと

して子どもと一緒に生活

をエンジョイすること

で、子どもたちが大人に

なりたいた、将来に大きな

希望を持てるようになる

のかもしれない。そん

な社会にしていきたいも

のです。

(新山直子、メルボルン在住)

(おわり)

この連載に関する意見、ご感想は日本海新聞

学芸へメールでお寄せく

ださい。アドレスはga

kugei@nbn.co.jp